



「寒いね」と話しかければ 「寒いね」と 応える人の いるあたたかさ 俵万智

“冬の寒い時でも、声をかければ、応えてくれる誰かがいると心が温かくなる” そんな人が周りにいるという幸せを感じられるものですね。

今年あれだけ猛威を振るっていた新型コロナウイルスも、今は感染者も減少し、徐々に普通の生活ができるようになっていきます。第6波を防ぐために、これまで通り感染予防を徹底しましょう。

今年も残りわずかになりました。新しい年を気持ちよく迎えるために、年末の整理と年始に向けた準備をしませんか。お父さん、お母さんだけがやるのではなく、子どもと一緒にやりましょう。子どもも小学校の高学年くらいになれば、大人と同じくらいの働きはできますし、低学年の子どもでも結構役に立つものです。一緒に活動しながら親子の会話もできますし、時間も短縮できます。両得です。子どもは、体験から学ぶことで豊かな心と生きる力が育まれるのです。年末はぜひ、子どもと一緒に活動しましょう。



## 「好きこそものの上手なれ」

先月、将棋の八大タイトルの最高峰、「竜王戦」の七番勝負の第四局が、宇部市で行われました。みごと藤井総太3冠が豊島竜王に勝ち、八つあるタイトルの半分になる4冠になりました。それまでの4冠獲得の最年少記録を3年6か月更新したのだそうです。(活躍の場は違うのですが、今年アメリカ大リーグで活躍した大谷選手、マスターズで優勝した松山選手と同様にすごい若者の活躍です。3人の活躍を見ると、日本の未来が明るく感じられ、嬉しくなります。)

その藤井4冠が、宇部市の小学校を訪れて子どもたちに次のように語っています。「私は5歳の時に将棋を始めて、それ以来夢中になっていきました。みなさんも興味のあること、面白いと思える気持ちを大切に、自分の好きなことに取り組んでいてもらえればと思っています」と・・・。

よく「好きこそものの上手なれ」と言われます。誰でも好きなことには一生懸命になれますし、好きであるからこそ、困難に出会ったときにも諦めることなく、工夫して乗り切ることができるのではないのでしょうか。子どもが、「興味あること」「面白いと思えること」「好きなこと」に取り組んでいる姿を見た時には温かく見守りましょう。決して「そんな無駄なことをしてから・・・」などのような声をかけないようにしましょう。

藤井4冠は好きな将棋に5歳で出会い、のめり込んでいくのですが、子どもたちには、成長の過程で色々なことを体験させ、自分で好きなことを見つけさせることが大切です。それを決める時期は、早い方がいいのかもしれませんがゆっくりでもいいのです。私たち大人の役割は、子どもに体験する機会を与えることでしょう。

みなさんの周りに、趣味のように自分の仕事を楽しみながらしている人がいませんか。おそらくその人は、好きなことを仕事にしている人だと言えるのでしょうか。好きのことを仕事に出来る人は幸せな人だと言えます。子どもと将来、どんな仕事に就きたいのかの話し合ってみてください。

藤井4冠と一緒に訪問した豊島元竜王は次のようなことを言っています。「将棋をする上で大切なことは何ですか」という子どもからの質問に対し、「強くなりたいのなら毎日続けることが大切です」「若い時の一瞬一瞬は大事。何かに夢中になって没頭する時間をたくさん作ってもらえたら」と答えていました。この言葉も含蓄のある言葉ですね。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村